

## 「第2回農業用水路を活用した小水力発電の今後の在り方に関する技術検討会」 議事概要

日時：平成30年1月26日（金）10：00～11：45

場所：熊本県庁本館9階903会議室

出席者：田中委員長、小柳委員、濱委員（宮原委員は急病のため欠席）

### ○主な審議結果

#### ゴミ問題について

- 計画段階からかんがい期における水量や落差、ゴミの量等をふまえ検討すべき
- 特に排水路の場合、土地改良区のみでの維持管理には限界があるため、地域全体での合意形成や管理体制の構築が重要であり、その際、関係者の動機づけが必要

#### その他

- 今回のモデル事業で得られた知見も含め小水力発電に関する情報を全国に発信・共有することが重要。
- 系統連系（売電）のみならず、電力の「地産地消」も検討してほしい
- 現在、安定的な発電が困難となっている阿蘇市の2施設については、発電の安定化に必要な追加コストを把握したうえで検討すべき

### ○議事概要

#### （1）ゴミ問題（計画段階）

（小柳委員）

本県の類似事例はより詳細に状況等を聞き取ったほうがよい

（田中委員長）

発電量が見込める灌漑期におけるゴミの状況や流量を把握すべき。スクリーンを設置する場合はその状況も踏まえた構造とすべき。

（濱委員）

排水路の場合、生活由来のゴミも多いため、ゴミ撤去費用をだれが負担するのか等、地域全体での合意形成が必要

（小柳委員）

ゴミ問題を土地改良区のみで解決するのは困難。計画段階から地域の合意形成を図る必要がある。土地改良区の意向も踏まえ、多面的機能支払いに組み込む等、地域全体でのシステムを構築する必要がある。

#### （2）ゴミ問題（維持管理段階）

（小柳委員）

継続して発電するためには管理体制が重要。例えばゴミが幹線水路に流入する前に支線水路で回収する等。管理の省力化の検討も必要。

（田中委員長）

ゴミの撤去は労力を要する。場所の選定にあたってはゴミ処理のしやすさ（道路から近い、等）も考慮すべき。

（濱委員）

地域でのゴミ対策には費用と動機づけが必要。しかし排水路の場合、用水路と比べて売電益が少なく、その水を営農に使わないためモチベーションも上がりにくい。

（田中委員長）

発電するためにすべきことを整理し、管理マニュアルを作成するとともに、管理体制の構築・役割分担を行う必要がある。また、田んぼの学校等を活用してモチベーションを上げていくことも必要。

### （３）その他

（濱委員）

今回のモデル地区で得られた知見を全国に発信するとともに、全国の小水力発電施設に関する情報を共有し、今後の施設整備に活かす必要がある。

（小柳委員）

今回の検討で得られた成果をふまえ、熊本県の小水力発電マスタープランも再検証する必要がある。

（田中委員）

全国調査でも事例があったが、発電した電力を地産地消することも検討してほしい。

（濱委員）

再稼働に向けた取組みを進めるにあたっては、追加コストや課題を把握してほしい。今後、全国で進められる小水力発電施設整備に役立つデータとなる。